

丹波市人権・同和教育協議会

# 人権ネットワーク たんば

## 第41号

発行 丹波市人権・同和教育協議会  
 〒669-3309  
 事務局 丹波市柏原町柏原3619  
 TEL・FAX 0795-72-2770  
 e-mail jinken@tambashi-doukyou.jp

## 第65回 兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会

7月28日(土) 篠山市立四季の森生涯学習センター等を会場に行われ、丹波市からは7つの報告がありました。7つの分科会の内容は以下の通りです。



第14分科会 松原 薫さん

分科会名 報告者	テーマ・内容
第3 (人権・同和学習) 荻野由香里 (大路小)	「自分も友だちも大切にできる児童の育成をめざして」 自己肯定感や自尊感情を育むことは、他者の痛みを感じたり不合理に気づいたりする素地を育て、人権意識の基盤となる。
第4 (進路・学力保障) 富田尚美 (氷上西高)	「多様な学びをとおして豊かな人間性を育む」 いろいろな種を蒔き、自分の得意なことをみつけさせる。活動を行うにあたって、目的をもって活動を実施し、実施前と実施後の成長をしっかり見るのが大切である。
第6 (多文化共生と人権) 中川ミミ (一般社団法人 Be)	「経験から学ぶ国際理解」 世界各地で学び、働き、暮らすなかで、国際理解を深める機会に恵まれ、さらにその先で、自分自身のアイデンティティを確立するような気づきを得た。そのきっかけとなる経験と経緯を報告する。
第9 (地域や学校における自主活動) 松田亜矢 (鴨庄小)	「地域とともに輝く子どもたちを育てる」 人権学習した後の、周囲の肯定的な言葉掛けひとつが、知識理解を超えて人権感覚へと結びつく基盤となっていく。
第11 (地域社会と行政) 北山美幸 (福祉部障がい福祉課)	「手話でつながる丹の里たんばをめざして」 行政として、手話を通じて聴覚障がい者の方々の方々の生活面での困りごとなども地域の方々に理解していただきながら、様々な障がいについても理解を求めていきたい。
第12 (企業・職場の人権) 大槻真也 (株式会社ネクステ)	「共に働き、共に夢を実現する職場をめざして」 『ダイバーシティ』(多様性)の言葉のとおり、様々な働く力が活かされ、障がいのある方が胸を張って働ける社会を実現したい。
第14 (人権文化の創造) 松原 薫(丹波・篠山自主夜間中学)	「夜間中学をひろげよう」 丹波地区に自主夜間中学の取組があることを知ってもらうための報告。丹波地域で継続・発展させていくためには、自治体の夜間中学への支援など課題が明らかになった。

### 人権教育研修会 (社会教育分野 合同部会A)

#### 演題 「女性の視点を地域づくりに活かそう」

講師：生涯学習応援隊so-so.39 代表 北村 久美子 さん

#### 男女共同参画とは・・・

○男女が全く同じになることはありません。

○性別による特性を生かしつつ、あくまでも個人個人が性別に左右されず、自分自身のやりたいこと・やれることを選べる・・・ということです。

○男女共同参画社会基本法は、女性のためだけのものではありません。男性を支援するものでもあるのです。



#### 女性の視点とは・・・

そもそも女性の視点とはなんですか?最近、男性脳、女性脳と聞いた事はないですか?体形で男性、女性で特性があるように、脳にもそれぞれ特性がある事が分かってきました。

男性脳は「理論脳」と言われ、代表的な特徴は確率、法則、経験などを踏まえて考えることがメイン。一方女性脳は「共感脳」で、相手の考えや意見に対して同調し、相談や話題が多く、色々な問題を一度に処理すると言われています。元々体形と脳の仕組みも違う男性と女性がお互い協力し合って地域づくりをすると、面白いアイデアが出てくる可能性があると思います。

#### 女性が地域づくりに関わると・・・

女性は暮らしに関わっていることが多いので、生活者の視点としてより多く情報が入ってきます。女性が感じていることは社会問題に繋がっていることが多いので、女性の視点を地域に繋げていければいいのかなと思います。

最近大きな災害が増えています。男女共同参画の中で特に防災・減災は男女問わず住民みんなでやっていかなくてはならない問題だと思います。みんなが参画し、その中に男性女性がいるという状況が本来あるべき姿ではないのかなと思います。自治会活動は他人事ではなく、自分で出来る事を地域に返していかなければいけない時代になっていると思います。

### 人権教育研修会 (社会教育分野 合同部会B)

#### 演題 「守ろう!子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権」

講師：Mottoひょうご事務局長 栗木 剛さん

栗木 剛さんは、「楽しくなくちゃ講演会じゃない」をモットーに笑いも軽快な語り口で、聞く人の心をほんわか耕す「舌耕家」として各地で笑顔を運んでいらっしゃいます。社会教育B研修会は社会福祉部会、PTA部会の皆さまを対象とし、「人権」をより身近なこととして感じてもらえる研修会となりました。



#### 参加者の感想

本当に楽しい研修会で、あっという間に時間が過ぎました。私が1番印象に残った言葉は「人権とは・・・自分がされて嫌なことはしない。自分がしてほしいことを先にし、自分がされて嬉しいことをする」。日々とりまく環境は変わっていくけど、人権は相手の立場に立つことだというお話でした。それから、子育ての話では「愛情という名の剪定ばさみ」。子どものやりたいという成長の枝を周りの大人(親や祖父母)が切ってしまう、何をするにも先に手助けをしてしまうと、頼りない盆栽(人間)を作ってしまう。小学校2、3年生までに枝を切られた子は、のちに大人になった時に何もできない人になってしまう傾向が大きい。このことは、子どもだけの話ではなく退職したお父さんにも言えることで、家事や近所付き合い、地域との交流ができない人が増えている。そうならないためにも常日頃から色々なことに興味を持ち、また色々な人がいて色々な考え方があることを知り、相手の立場に立つことが人権である、というお話でした。今からでも遅くない。子育てや老後に役立てたいと思いました。本当に楽しい研修会でした。

